同志社大学体育会カヌー部OBOG会
会費新制度へのご協力のお願い

2024年10月　幹事会

今回の改訂提案

幹事会ではこれまで２年越しで、これからのOBOG会のあり方と会費制度について議論してきました。このたび、10期～50期台まで全年代が参加する幹事会での真剣で活発な議論を経て、新しい会費制度を提案し、皆さまのご協力をお願いすることとなりました。

これまでのやり方

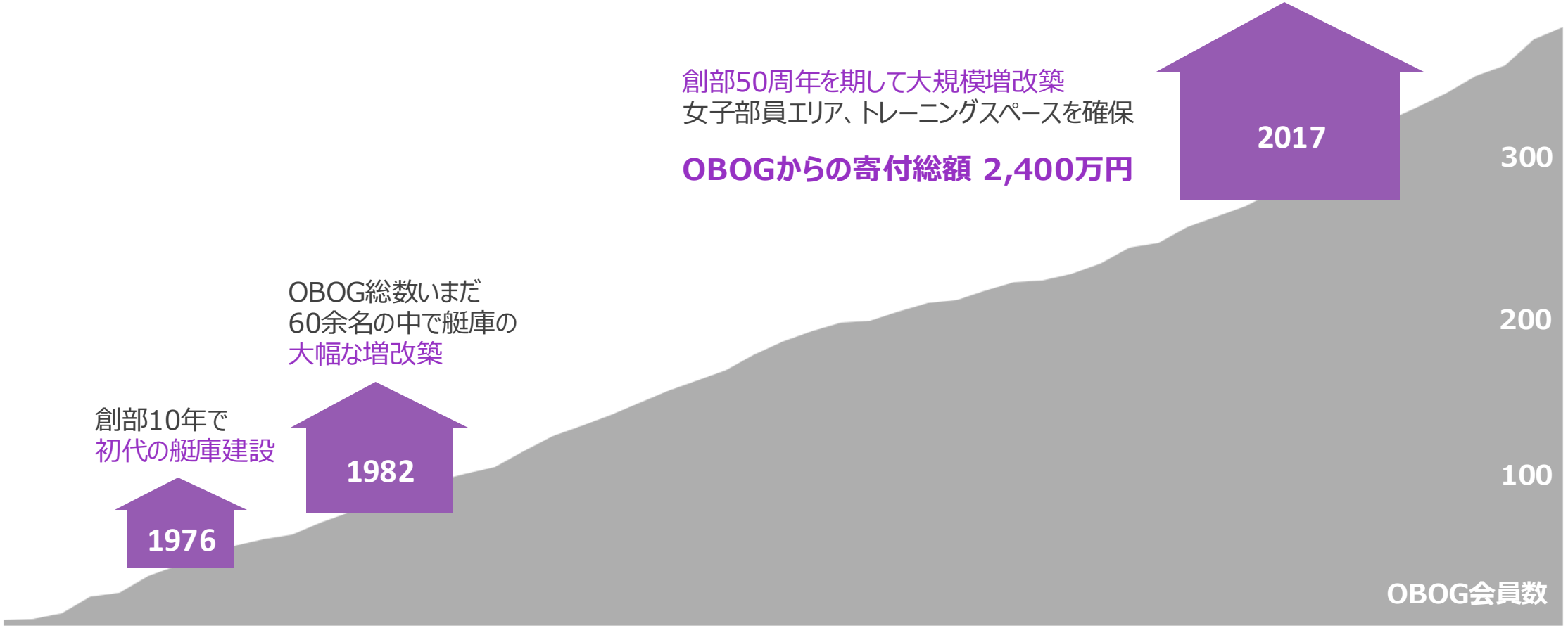
年会費も併用しつつも、できるだけ一括・早期での支払い＝終身会費の支払いを奨励する

新しいやり方

- 年会費10,000円を基本として、払い方・時期に関わらず総額15万円の支払いをもって終了とします
- 支払い終了した方からもサポート会費（寄付）を継続的に募ります

これまでのやり方の背景

歴史が浅く少人数の時代から、艇庫建設という大きな
インフラ支出のために、前倒しで財政基盤を確保



50周年を無事終えて制度の転換点を迎える

- 50周年・艇庫増築という一大イベントが終わり、多額の一括支払いの必然感が薄れる
- 若年層のOBOGにとって終身一括払いの負担は大きく、本来は現役応援やOBOG会に関わりたい人も、遠ざけてしまっている
- 納付を働きかけ「憎まれ役」を引き受ける幹事会も疲弊

カヌー部の次の50年に向けて

若年OBOGの負担を軽減し

全年代のOBOGが

ポジティブな気持ちで関わり

サポートしていけるサステイナブルな

体制をつくりたい

新しい会費制度のポイント

- 卒業後のOBOGは基本的に**年会費1万円を支払い、総額で15万円を支払った時点で支払い完了**となる
- 払い方は自由で、15年にわたって支払うことでも良いし、余裕のできた時に残りを繰り上げ・一括で支払うことも可能
- 従来制度の中で終身会費の一部・全部未納の状態の方にも、ぜひ年会費支払いに参加していただきたい
- 年会費を支払っていただいたOBOGの方は、基本的にそのお名前を公表し、OBOG会・現役部員のそれぞれから感謝の意を表明する
- 会費支払いは随時受け付けますが、原則としてOBOG会の会計年度が新しくなる10月から12月の間にお支払いをお願いします

艇庫建設以降のこの10年の間に卒業した若手OBOGにも、負担の大きい中で終身会費を一括納付してくれた方が多くいらっしゃいます。

そうした努力に報いるためにも、年会費での支払いと一括での支払いには総額に差をつけるべきであるとの意見が、幅広い年代から出されましたが、最終的には「将来に向かっての制度としてよりシンプルなものにする」ことで意見の集約をみました。

サポート会費(仮称)のポイント

- 既に終身会費・艇庫建設費用を支払い終わった方たちにも、あらためてカヌー部のサポートにご協力いただくため、金額も含めて完全任意の寄付金制度（仮称：サポート会費）をスタートする
- 年会費と同様に、お支払いいただいた方のお名前を公表し、OBOG会・現役部員双方から感謝のメッセージを送る。特に現役からの広報活動は重要。
- 基本的に通年での受け付けとするが、関カレ、インカレなど重要な試合、海外派遣、アスリートOBOGの活躍、総会や懇親会などのイベントを最大限活用してドライブを図る。
- 年会費がお世話になったクラブへの恩返し(ペイバック)だとしたら、こちらはカヌー部の将来のための**”ペイ・フォワード”**としてぜひご協力をお願いいたします。

終身会費等を全て払い終わっている多くの方々から、これまでも折にふれ、寄付や差し入れの形で支援をいただいています。ありがとうございます。

こうしたご寄付に共通の仕組みをつくって、より多くの方からのご支援をお願いするものです。

OBOG会の果たしている役割

カヌー部の主役はあくまで現役学生。OBOG会は、昔を懐かしむ親睦団体として活動すれば良いのではないか。

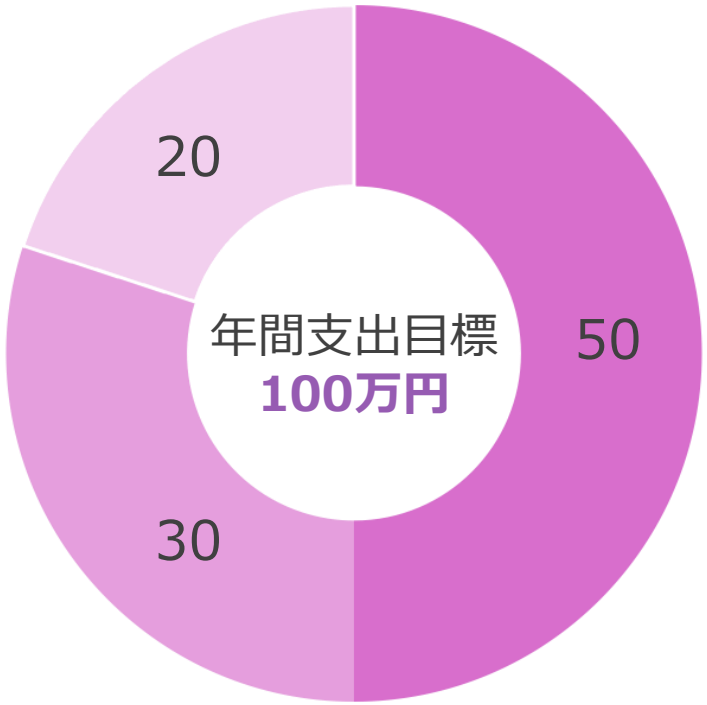
現役学生の活動費負担は今や年間20万円で、50人のクラブの年間予算は1,000万円規模。OBOG会の現役支援など所詮無力ではないか。

こうしたご意見も、ある意味その通りではあるのですが…

- 学生が主役の任意団体であっても ”同志社大学体育会” の看板を使う以上、大学側は責任ある大人が監督・コーチとして就任していることを要請
- 特に昨今の体育会不祥事の中でこの重要性は増加
- 無給のこの仕事を引き受けてくれる人材の給源は実質的にOBOG会しか存在しない
- 艇庫建設などでも、大学側の支援には「責任あるカウンターパート」としてのOBOG会の存在が必須
- 体育会の連合体であるスポーツユニオンに対しても同様

OBOG会はカヌー部が体育会として
存立するための必須要件です

基本方針としての資金使途



50: 監督・コーチへの交通費・宿泊費等の支援。これでもその時間と労力の前には全く足りないのですが、できるだけ金銭的負担を減らしたいという性格の支出

30: 遠征や合宿への差し入れ、モーターボートの維持費、艇庫の通信費など、現役部員やアスリートOBOGの活動をサポートするもの

20: 総会費用、対大学、対ユニオンの費用など OBOG会としての活動経費

*このうち、70万円程度は固定経費でありいわばマストアイテム。あとは収入次第でどれだけアスリート支援を上積みできるかというのが実態

当面の運営と直面するチャレンジ

ファクトとデータポイント

- 大半のクラブが年会費制をとるが、納入率は歴史があって会員数が1,000名を超えるようなアメフト、陸上などで40%程度。ラグビー部の80%が例外的存在。
- カヌー部の一学年の平均人数を8人として、年会費支払い世代が15代いると、対象人数は合計120人
- 納入率40%で年間収入48万円、60%で72万円

- 支払い完了世代からも、サポート会費としてご支援いただくことは不可欠
- 卒業後15年までの若手OBOGには既に終身会費を支払った人も多数いるため、新制度が定着するまでの収入基盤はいずれにせよ弱い
- 当面の赤字は約600万円ある積立金で補填しながら、制度の定着に努力する
- 取り立てに力を使うのではなく、ポジティブな動機で協力していただけるように、コミュニケーション活動に注力。現役の協力は極めて重要。
- 支払方法の工夫（アフィニティカードでの引き落とし、ECプラットフォームの活用など）を継続検討

“良き心を持った若者を社会に送り出す” ことが同志社の教育理念ですが、瀬田で過ごした日々がそこに大きな役割を果たしていることは、カヌー部に在籍した人なら誰しも実感しているのではないでしょうか。

学生の時は、体育会カヌー部とは4年間在籍している自分たちのことだと思っていましたが、実はその列の前方ににいるOBOGたちも、何かの偶然に導かれてこれから同志社に入学しカヌー部の門をたたく「まだ見ぬ部員たち」もみんな含めて、連綿と続くこの集合体こそが同志社大学カヌー部なのだと、今は理解できるようになりました。

カヌー部次の50年に向かって、どうぞ新しい制度へのご理解と、あらためてのご協力をお願いいたします。